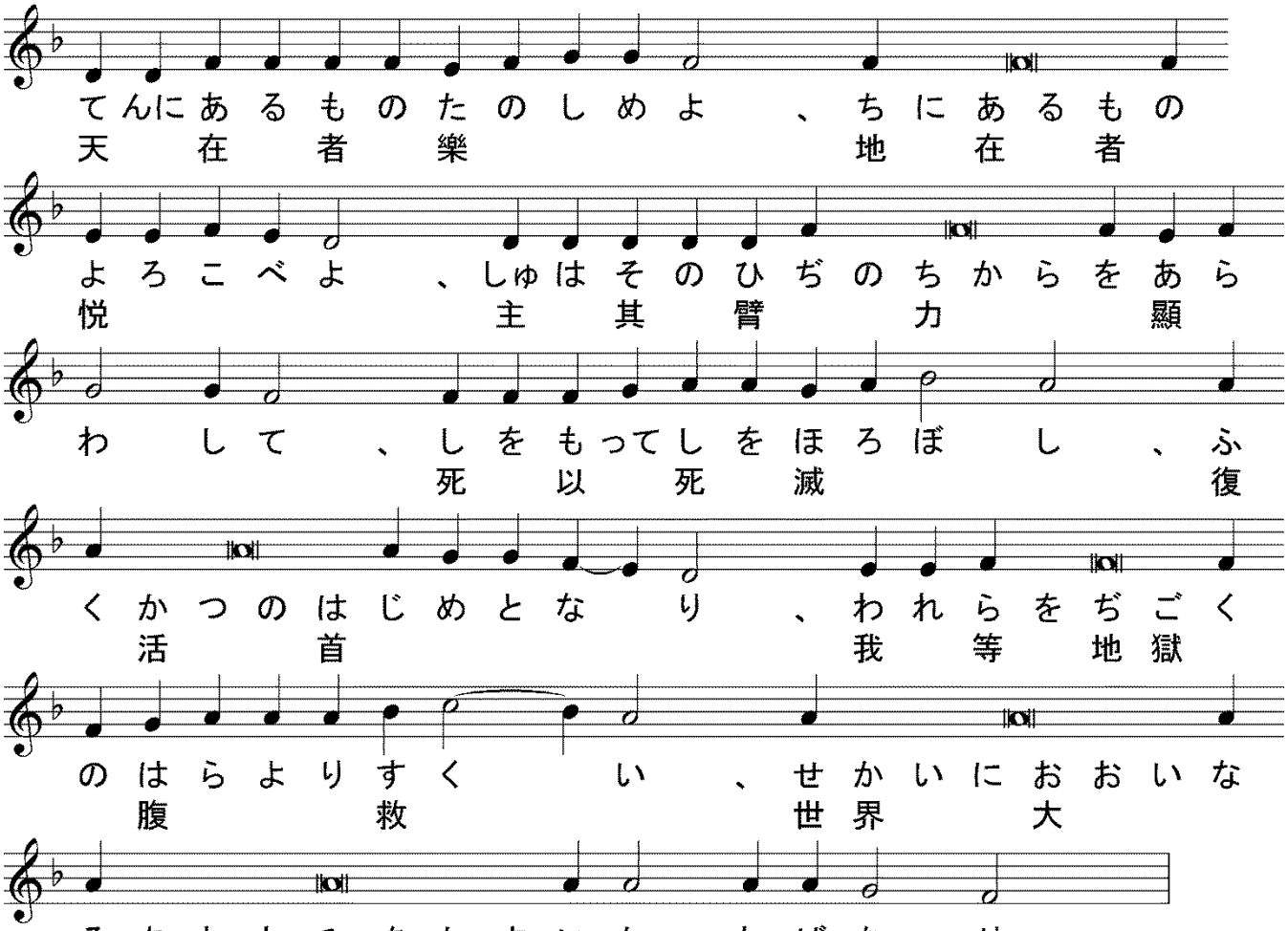
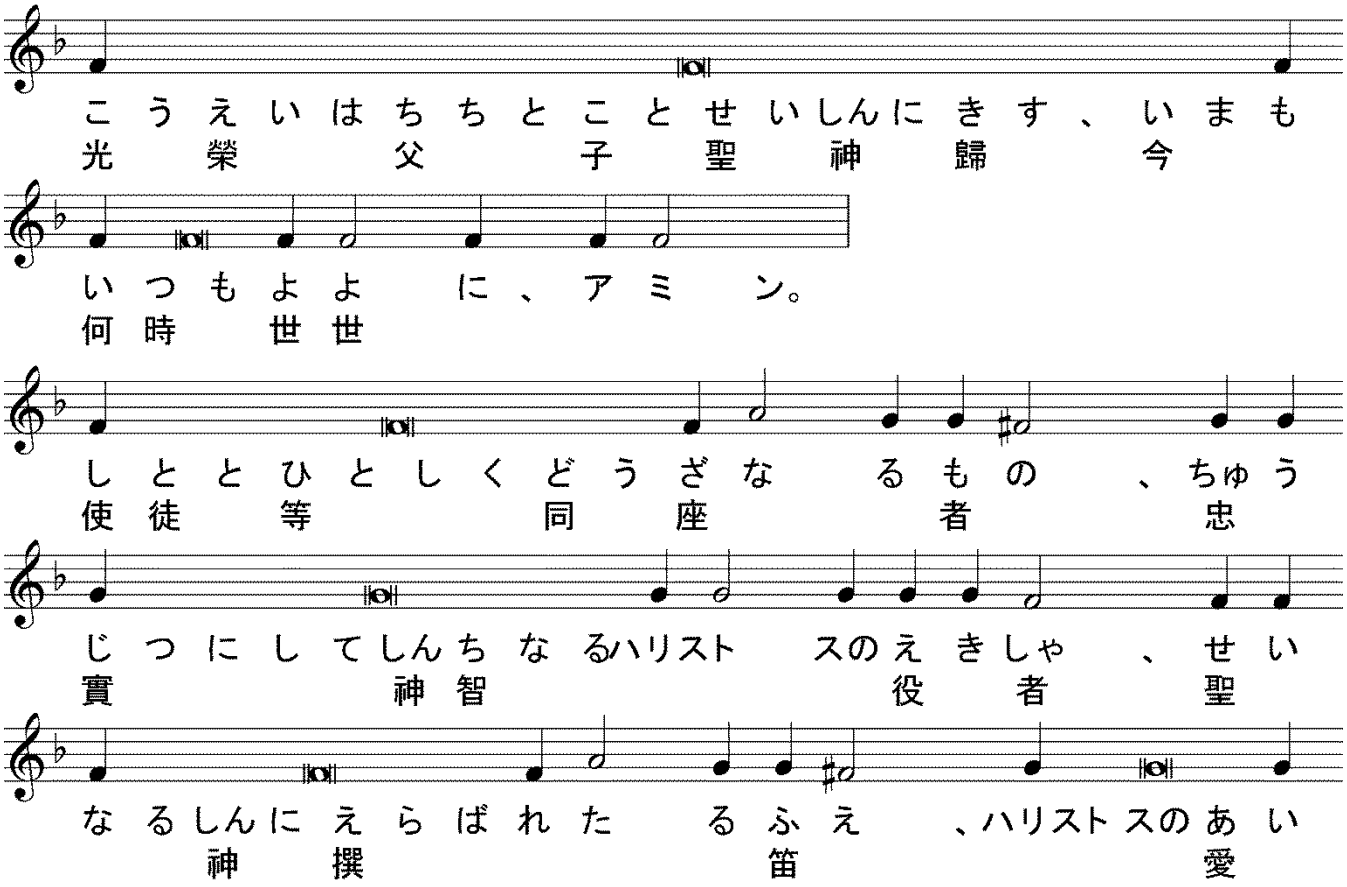
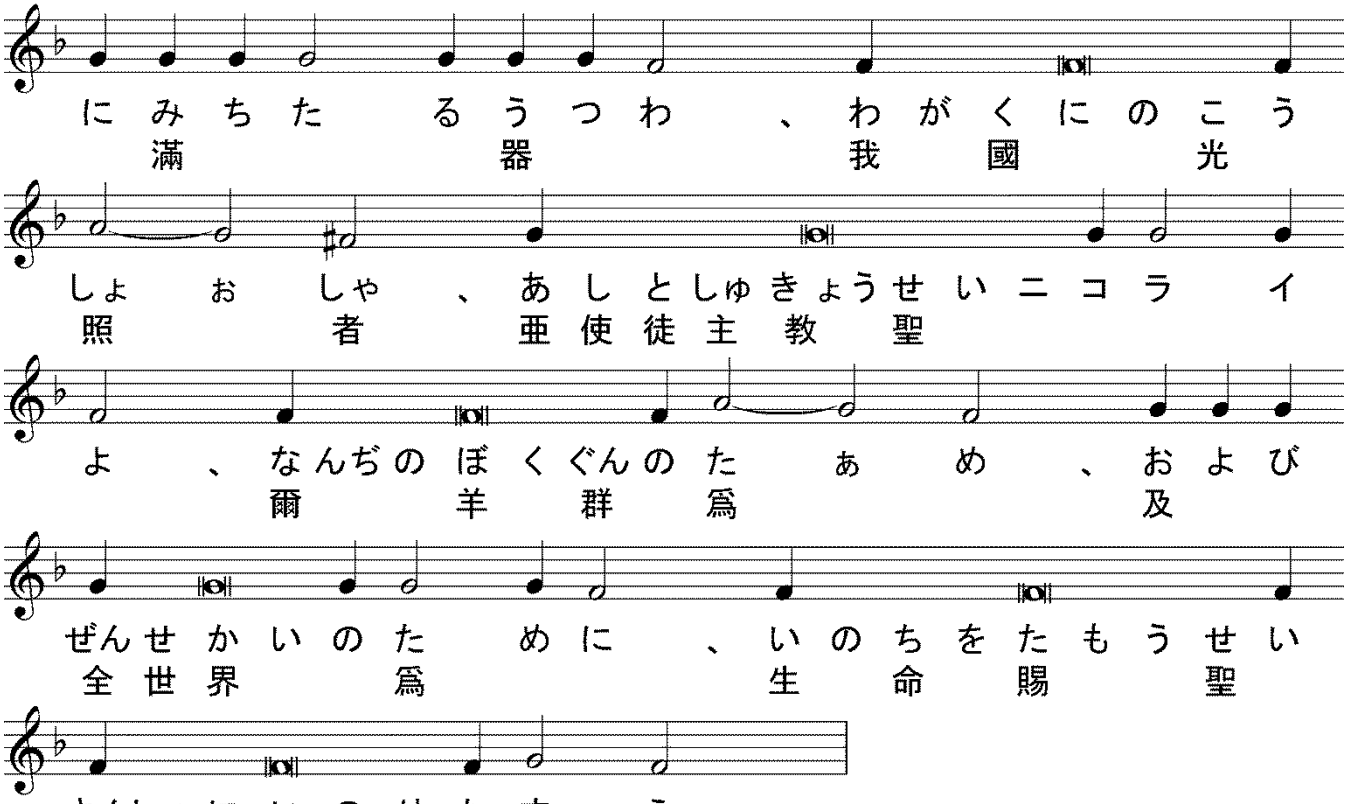
【　復活讃詞　第３調　】



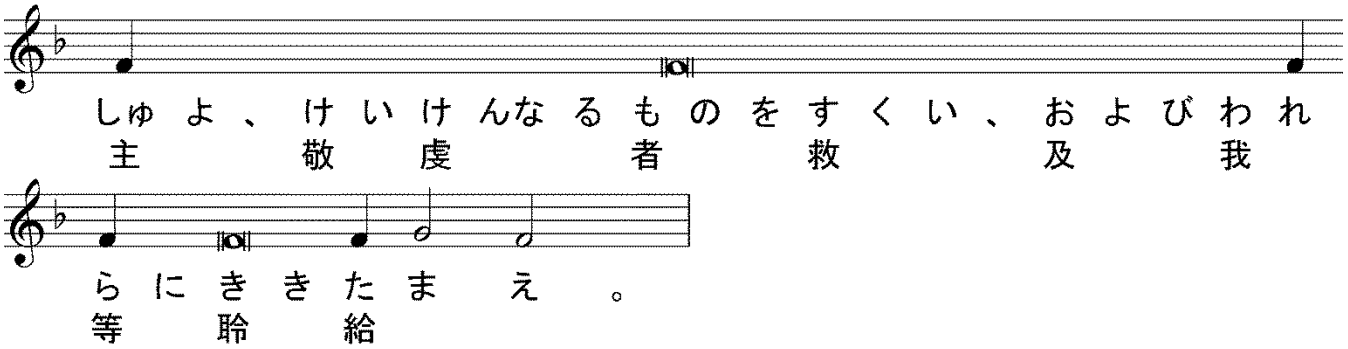
【　日本の亜使徒聖ニコライの讃詞　第４調　】



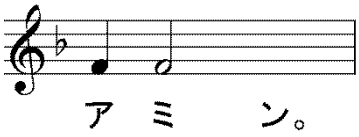


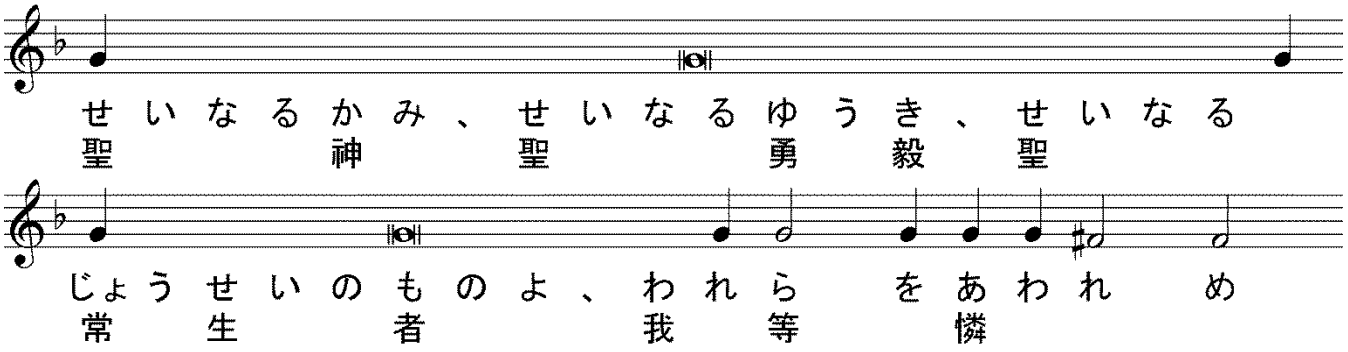
【　聖三の歌　】

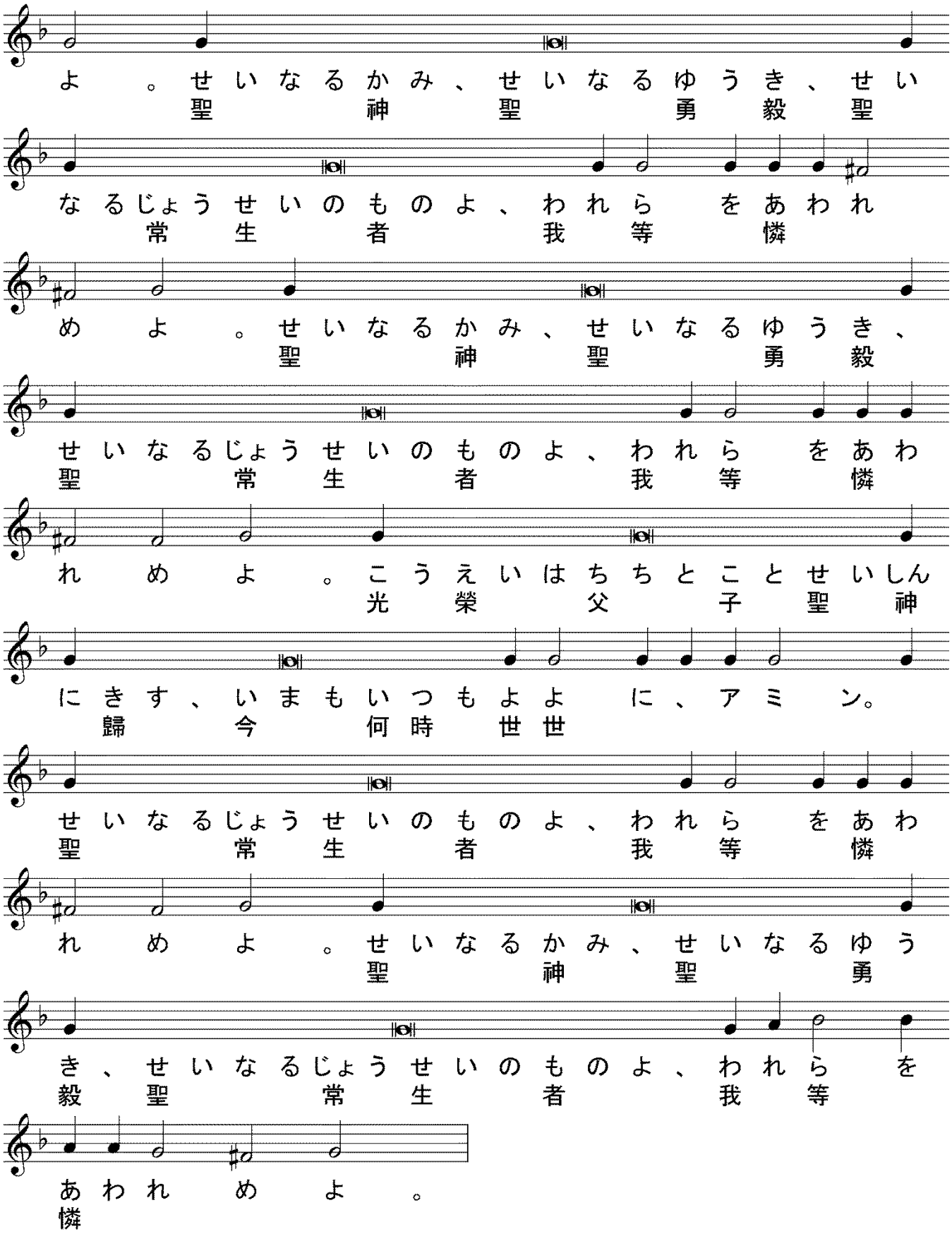
代禱）主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、



代禱）世世に、



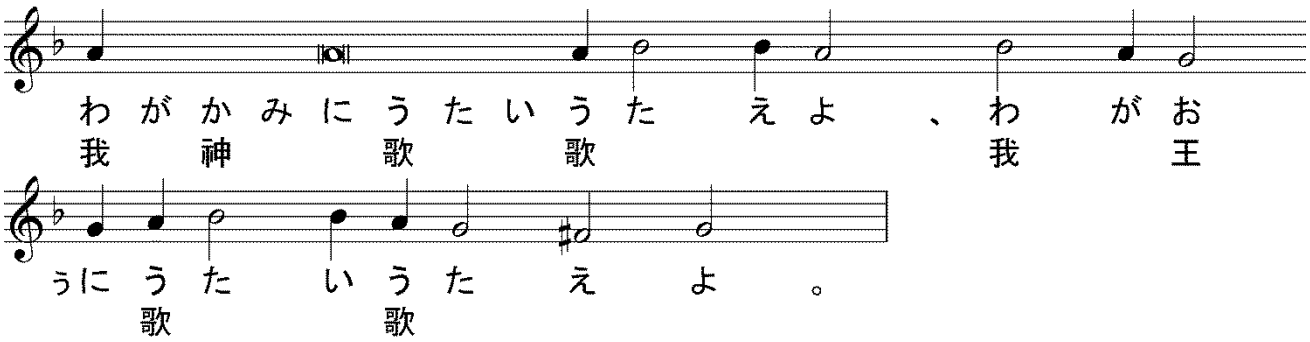




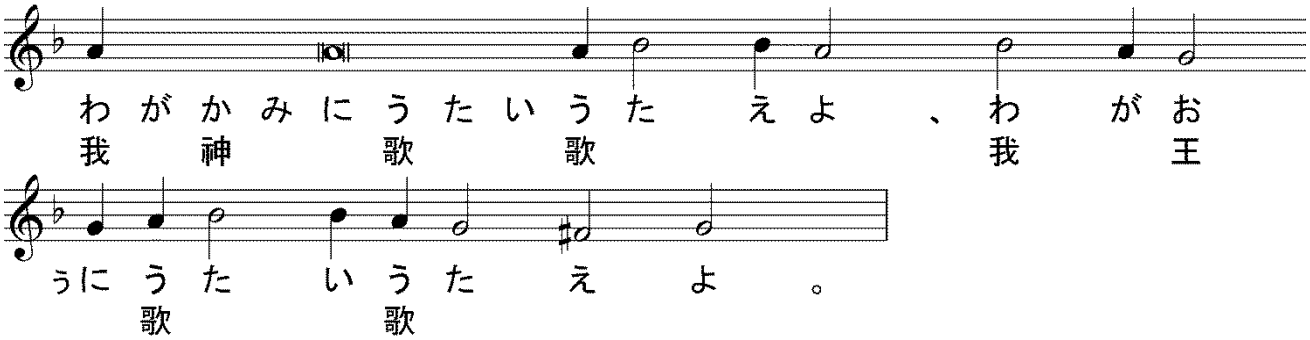
【　提綱（プロキメン）主日第３調　】

代禱）睿智（えいち）、

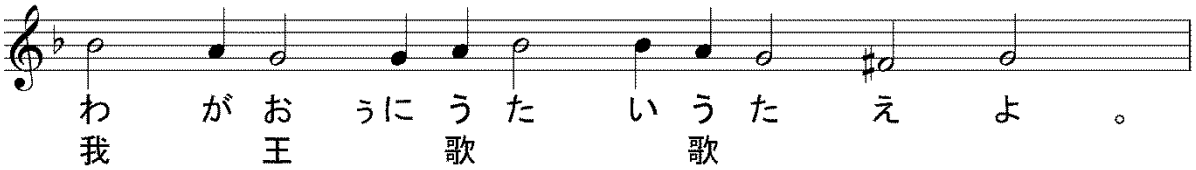
誦經）プロキメン、我（わ）が神（かみ）に歌（うた）い歌（うた）えよ、我（わ）が王（おう）に歌（うた）い歌（うた）えよ、



誦經）萬民(ばんみん)よ、手(て)を拍(う)ち、歡(よろこび)の聲(こえ)を以(もつ)て神(かみ)に呼(よ)べ、



誦經）我(わ)が神(かみ)に歌(うた)い歌(うた)えよ、



【　使徒經（アポストロス）93 端　ロマ書 6 章 18～23 節　】

代禱）睿智(えいち)、

誦經）聖使徒(せいしと)パヴェルがロマ人(じん)に達(たつ)する書(しょ)の讀(よみ)、

代禱）謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經）兄弟(けいてい)よ、爾等(なんぢら)は罪(つみ)より釋(と)かれて、義(ぎ)の僕(ぼく)と爲(な)れり。爾等(なんぢら)が肉體(にくたい)の弱(よわ)きに因(よ)りて、我(われ)人(ひと)の情(じょう)に循(したが)いて言(い)う、爾等(なんぢら)が曾(かつ)て其肢體(そのしたい)を不潔不法(ふけつふほう)の僕(ぼく)と爲(な)して、不法(ふほう)に委(ゆだ)ねし如(ごと)く、斯(か)く今(いま)爾等(なんぢら)の肢體(したい)を義(ぎ)の僕(ぼく)と爲(な)して、成聖(せいせい)に委(ゆだ)ねよ。蓋(けだし)爾等(なんぢら)罪(つみ)の僕(ぼく)たりし時(とき)は、義(ぎ)より釋(と)かれし者(もの)たり。其時(そのとき)爾等(なんぢら)に何(なん)の結果(けっか)有(あ)りしか、今(いま)自(みづか)ら耻(は)づる所(ところ)の行爲(しわざ)なり、蓋(けだし)其終(そのおわり)は死(し)なり。然(しか)れども今(いま)爾等(なんぢら)罪(つみ)より釋(と)かれて、神(かみ)の僕(ぼく)と爲(な)りし時(とき)は、爾等(なんぢら)の結果(けっか)は成聖(せいせい)なり、其終(そのおわり)は永遠(えいえん)の生命(いのち)なり。蓋(けだし)罪(つみ)の報(むくい)は死(し)なり、神(かみ)の賜(たまもの)はリストス・イイスス我等(われら)の主(しゅ)に由(よ)る永遠(えいえん)の生命(いのち)なり。

＊＊＊

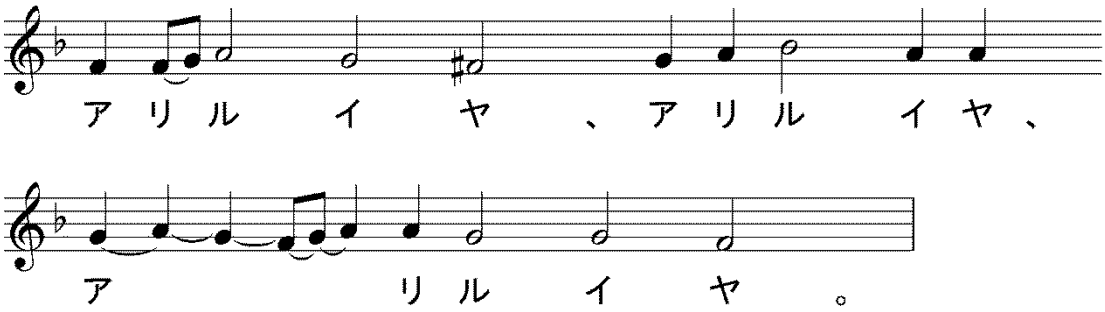
（比較用　口語訳）兄弟たちよ。あなたがたは罪から解放され、義の僕となった。わたしは人間的な言い方をするが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくならねばならない。あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

＊＊＊

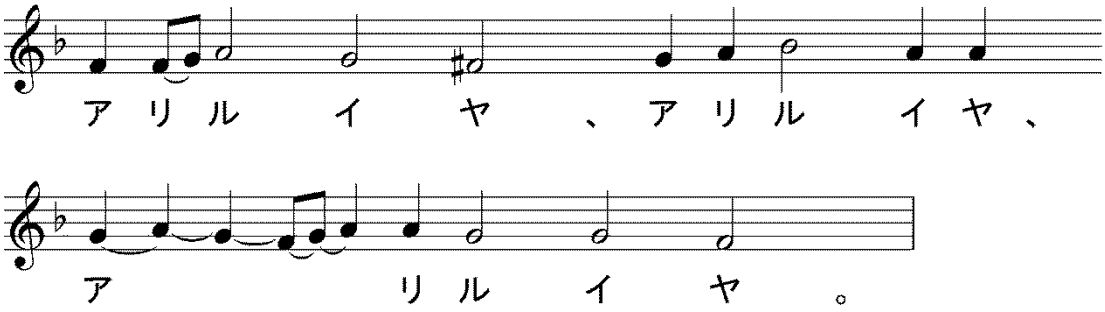
代禱）睿智（えいち）、

誦經）アリルイヤ、

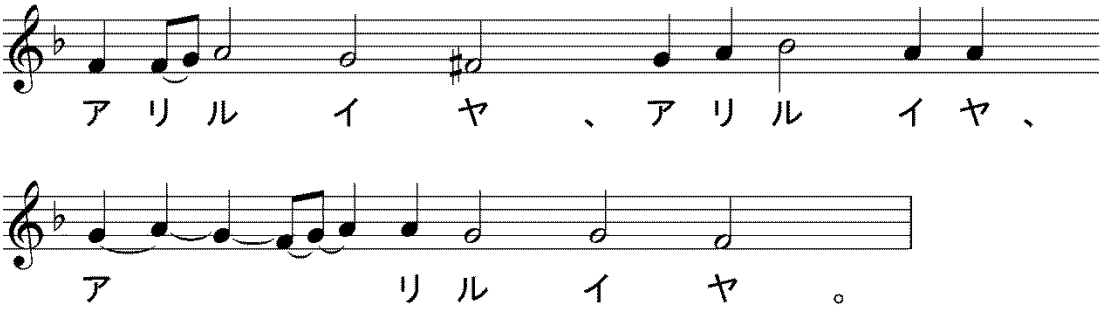
【　アリルイヤ　主日第３調　】



誦經）主（しゅ）よ、我（われ）爾（なんぢ）を恃（たの）む、願（ねが）わくは我（われ）世世（よよ）に羞（はぢ）を得（え）ざらん、



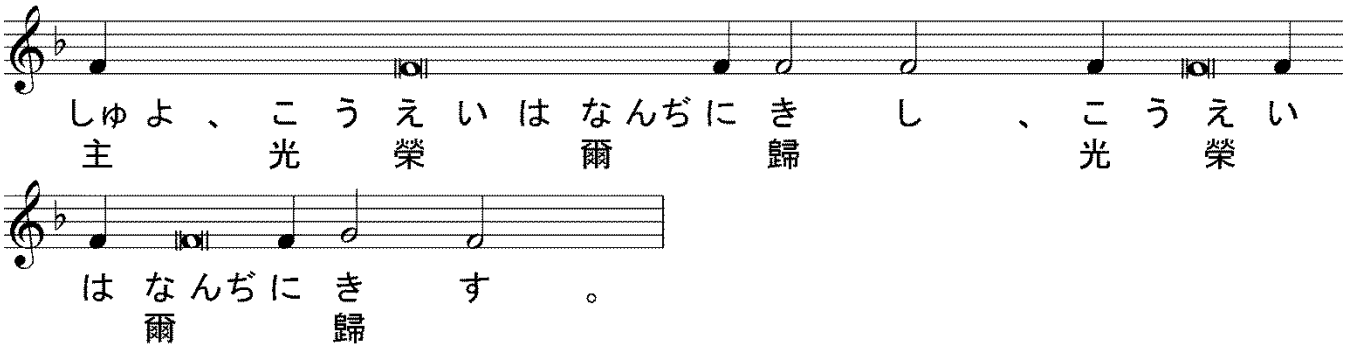
誦經）我（わ）が爲（ため）に堅固（けんご）なる避所（かくれが）となりて、我（われ）に常（つね）に隱（かく）るるを得（え）しめ給（たま）え、



【　福音經（エヴァンゲリオン）　マトフェイ福音書25端8章5～13節　】

代禱）睿智（えいち）、

誦經）マトフェイ傳の聖福音經の讀、



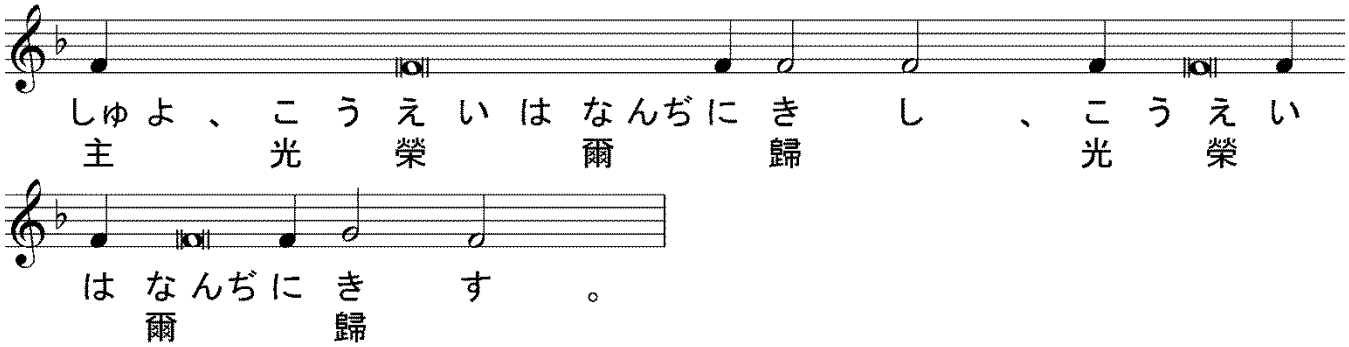
代禱）謹みて聽くべし、

誦經）謹みて聽くべし、彼の時イイスス、カペルナウムに入りし時、百夫長彼に就きて、求めて曰えり、主よ、我の僕癱瘋にて家に臥し、苦むこと甚し。イイスス彼に謂う、我往きて之を醫さん。百夫長對えて曰えり、主よ、爾が我の舍に入るは、我當らず、唯一言を出せ、然らば我が僕愈えん、蓋我人の權に屬すれども、我が下に兵卒ありて、我此に往けと云えば往き、彼に來れと云えば來り、我が僕に是を行えと云えば行う。イイスス之を聞きて奇と爲し、從う者に謂えり、我誠に爾等に語ぐ、イズライリの中にも、我是くの如き信を見ざりき。我又爾等に語ぐ、衆くの者東より西より來りて、アヴラアム、イサアク、イァコフと偕に天國に席坐し、而して國の諸子は外の幽暗に逐われん、彼處には哀哭と切齒とあらん。イイスス又百夫長に謂えり、往け、爾の信ぜし如く爾に爲るべし、斯の時其僕愈えたり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスがカペナウムに帰ってこられたとき、ある百卒長がみもとにきて訴えて言った、「主よ、わたしの僕が中風でひどく苦しんで、家に寝ています」。イエスは彼に、「わたしが行ってなおしてあげよう」と言われた。そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下にも兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた人々に言われた、「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。なお、あなたがたに言うが、多くの人が東から西からきて、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席につくが、この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。

＊＊



※代式祈祷③　へ